

平成8年度第2回幹事会報告

平成8年7月11日
尼崎市立産業郷土会館 会議室

[報告・協議事項]

事務局(総務・会計・企画) ①入会案内：豊橋市立病院と石切生喜病院へ ②総務連絡事項：組織構成図と入会案内資料の改定について報告と了承。会計報告：担当幹事より中間報告、現行所在目録の発行費約25万円は今年度は「その他の事業」予算からの支出とすることにした。③日本医学図書館協会の第67回総会(神戸国際会議場 96/05/21-22)へは、事務局から小田中徹也、幹事から林伴子の両名が出席。④日本病院会より今年度の全国図書室研究会(横浜市 96/10/3-4)の後援名義の借用について依頼があったので、受諾した(96/06/04)。⑤株式会社サンメディアより、当協議会へ L-PALシステムについての新しい料金システムの提案があり後日、返答することにした。⑥近畿地区医学図書館協議会主催の第2回シンポジウムの開催にあたり当協議会からも実行委員として参加してほしいとの要望があったので、企画担当の首藤佳子氏が今年度は担当することにした。

⑦第66回近畿地区医学図書館協議会例会(大阪医科大学 96/06/21)に事務局長の小田中徹也、幹事の山崎捷子氏の2名が出席を予定していたが、都合により小田中の代理で幹事の松本純子氏が出席。⑧健康保険東濃病院(図書委員長名)より、会員のうち500床以下の病院について図書予算などについて無記名のアンケートをして運営の参考にしたい旨の依頼があった(96/06/28)。了承し、併せて当協議会の年次統計について紹介した。⑨病院図書室研究会と名古屋市において懇談会(96/06/29)を持ち、双方の今後の協力のありかたについて懇談・協議した(別記報告参照)。

研修部 春の勉強会(96/06/06 京都南病院)への参加者は17名、遠方からの参加者が目

立った。第79回研修会(96/07/17)の準備では講師の都合によりプログラムを一部変更した。なお、第80回研修会は9月、10月に見学会、12月に第81回研修会を計画中。テーマについては協議の結果、第80回は「パソコンの基礎からネットワークへの接続まで」を扱うことにした。文献の相互貸借業務についてはマニュアルを作成することにし、研修部から提出された当日の試案を、各幹事は検討し次回幹事会までにこれらをもとに研修部でまとめることにした。

会誌編集部 会誌16(1)'96の概評、16(1)'96の発行経過の報告。編集体制の変更、購読会員の拡大について報告。なお、3号と4号の企画について報告された中で病院図書館員の専門性についての特集では、今日的な病院図書館員の役割を明確にし、アクティブでモデル的なケースの紹介が要望された。

統計調査部 前もって幹事に配布された項目構成の変更点についてまとめが報告された。その結果、今年度の年次統計調査からは病院図書室の機能に照準をあてて調査を進めることになった。

目録編集委員会 現行所在目録の編集・発行の経過報告があり、外注による経費は257,500円であったが、次回からはさらに安く発行できることが報告された。なお、来年度は総合目録の発行に集中することにし、現行版は総合目録の補完的役割を担うことにした。なお、総合目録の改定版の製作企画案については、次回幹事会に提出されることになった。さらに、今後は委員会を「目録編集部」とし継続事業として取り組むことにした。

[決定事項]

(1)株式会社サンメディアの L-PAL システムの B コースの取扱い手数料の当協議会一部負担について：会員の今後の利用率や動向、A コース会員の得失などを考慮し、意義を認めれば、来年度から予算化して導入を検討する。
(2)病院図書室研究会との今後の協力関係について：今回の懇談会の合意内容に沿い、ま

ず双方の間で情報の交換を密にし、その上で協力事業を探っていく。

(3)コンピュータ・ネットワークの具体化について：当面、各会員がインターネットあるいはパソコン通信に積極的に加入するよう働きかけ、またそのための啓蒙活動をすすめていく。その過程で必要性和経費に応じ協議会独自のコンピュータ・ネットワーク構築をはかる。なお、インターネットのWWWにおけるホームページの開設については、サーバーが決まりしだい早急に開けるよう準備する。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

「病院図書室研究会との懇談会報告」

日時：平成8年6月29日 10:30～12:30

会場：名古屋市内 レストラン「ふらいぱん」

出席者：近畿病院図書室協議会と病院図書室研究会の各役員、計9名。

テーマ：今後の協力のありかたについて

合意内容：

1. 近畿病院図書室協議会と病院図書室研究会は、協力して日本における病院図書室の全般的な向上をめざす。
2. 今後、定期的な懇談の場を持ち、双方の間で情報交換や協議などをおこない、その中で協力事業の具体化についても探っていく。

なお、具体的な事業例としては、①研修会の開催や人的交流 ②コンピュータ・ネットワーク化 ③病院図書室の法的基盤整備への推進 ④情報提供機関・団体や業者への対応、などが話題となった。

概括：

今回、病院図書室研究会が新体制となって初めての交流の機会となった。率直に意見を交換し、かつ今後協力を強めていこうとの考えが一致した意義は大きい。当日は、協力事業の具体化の中で特に研修会の開催について話題となった。しかし、具体的な事業よりもまず双方の情報交換の機会を定

期的に持つことにした。

また、当日は都合により出席はなかったが、名古屋地区の幹事である大橋真紀子氏に会場探しのお世話になった。

(小田中徹也)

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★